

第3学年〇組 国語科学習指導案

日 時:令和6年〇月〇日(〇)第〇校時

場 所:3年〇組教室

授業者:〇〇 〇〇

1 単元名・教材名 音読を楽しもう「初恋」

～作品を通して作者に語りかけ、作者の思いに耳を傾ける。～

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 生徒観

①県学力・学習状況調査より

「観点別正答率」で、県の平均と本校3年生の平均とを比較した。

区 分	県平均との差	区 分	県平均との差
言葉の特徴や使い方	〇ポイント	話すこと・聞くこと、書くこと	〇ポイント
情報の扱い方、我が国の言語文化	〇ポイント	読むこと	〇ポイント

結果、話すこと・聞くこと、書くこと以外で、県平均をやや下回っていることが読み取れる。ちなみに、県の示す学力レベルでは、県平均＝9-C、本校平均＝〇と、〇ランク〇のレベルに位置している。また、生徒質問紙調査「次の教科でどれが好きですか。あてはまるものすべてを選んでください」の調査結果では、「国語が好き」という生徒は、全体の〇％と、5教科中最下位の数値であった。上記改善のために、国語科では、(1)学び合い学習の充実、(2)ワークシートの効果的活用、(3)ICT(タブレット)の有効利用の3点を進めている。

②日常の様子より

本学級は、屈託のない明るい生徒が多い。多くの生徒が、集団の中で臆せずに自己を表出することができ、グループでの学習にも心を開き、活発に参加することができる。しかし、その反面、深く考えることが苦手な生徒や家庭学習による努力や粘り強い学習活動が十分ではない生徒も少なからずいる。

以上、①・②から、本校における国語科の課題は、「深く探求する学習の楽しさを味わわせる」ことであり、そのための手立てとして、「学び合い学習の充実」に尽力すべきであると考え。自分との対話、仲間との対話、教材との対話を大切にする「協働と対話」の授業を展開し、国語に対する興味・関心を高めていきたい。

(2) 教材観

「初恋」は、日本の近代詩の出発点となった抒情詩の名作であり、言語文化の継承という視点からも、一度は生徒に触れさせたい作品である。また、七五調の端正なリズムと文語独特の美しさが、音読を通して心地よく響く一面もある。

文語定型詩であるがゆえに、生徒にとっては「わかりにくい」作品である。しかし、わかりにくいからこそ、「わかりにくい」の先にあるものにたどり着いたときの「喜び」が味わえる。「仲間との協働」・「作品との対話」を通して、「深い学び」につなげ得る格好の教材である。

(3) 指導観

まず、「深く探求する学習の楽しさを味わわせる」ために、「主体的、対話的に活動できる学習課題」を工夫し、設定する。

次に、学び合いグループが効果的に機能し「仲間との協働」・「作品との対話」を生徒一人一人が主体的に行えるよう、授業者がファシリテーターとして、グループの活動から漏れ聞こえてくる「光る発言」や「建設的な意見」を拾って、「聴く・つなぐ・もどす」働きかけを行う。

3 研究課題との関わり

(1) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(2) 研究の視点

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
～国語科の「見方・考え方」を働かせた学習活動の充実～

(3) 研究課題解決のための仮説と手立て

仮説

学び合い学習をとoshi、「仲間との協働」・「作品との対話」が実践できれば、生徒の「主体的・対話的で深い学び」が達成できるのではないか。

手立て① 生徒の学習意欲を喚起する「共有の課題」と「ジャンプの課題」を設定する。

手立て② 授業者が、ファシリテーターとして、グループの活動から漏れ聞こえてくる「光る発言」や「建設的な意見」を拾って、「聴く・つなぐ・もどす」を、効果的に実施し、生徒の学び合い学習が円滑に進むよう支援する。

4 単元の目標

- (1) 文語表現等、理解や表現に必要な語彙を増やし、語感を磨くことができる。 〈知識及び技能〉(1)イ
- (2) 構成や展開、表現の仕方について深く理解し、考えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ
- (3) 言葉の価値を認識するとともに、自己を向上させ、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

5 本単元における言語活動

- (1) 詩の内容や価値を理解し、気持ちを込めて音読する。
- (2) 作品中の言葉や表現をじっくりと読み味わい、作品にあふれる作者の心の声に耳を傾ける。
- (3) 学び合い班での協同を通して、お互いの考えを伝え合う。 (以上関連：言語活動例C(2)イ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文語表現等、理解や表現に必要な語彙を増やし、語感を磨いている。((1)イ)	・「読むこと」において、詩の構成や展開、表現の仕方について考えている。(C(1)ウ)	・音読したり、自分の考えを述べたり、作品・作者・仲間の言葉に耳を傾け、意欲的に語感を磨こうとしている。

7 指導と評価の計画(全3時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○作品を読み、初読の感想を書く。 ○作品について形式や文語表現など、基本的なことを理解する。 ○適切なテンポと間を意識して音読の練習をする。	○初読の感想 ○詩の形式、文語、表現の確認 ○音読の練習	○ワークシートを活用し、学習効率を上げる。 【知識・技能】 <u>ワークシート</u> 、 <u>観察</u> ・詩の形式や文語表現等について正しく理解できているか、正しく音読できているか確認する。
2	○作品の「時」「場所」「人物」に注意し、現代に生きる自分たちの言葉で翻訳する。	○大まかな内容の把握(現代語訳の作成)	○ファシリテーター 【思考・判断・表現】 <u>観察</u> 、 <u>ワークシート</u> ・学び合い班で、課題解決に向けて協力できているか確認する。(聴く、つなぐ、もどす)
3 本時	○作品と対話し、言葉や表現に込められた作者の心の声に耳を傾ける。 ○学び合い班での活動の成果を、クラス全体で聴き合い、学習の振り返りをする。	○表現の特徴の確認 ・「共有の課題」 ・「ジャンプの課題」 ○振り返り	○ファシリテーター 【思考・判断・表現】 <u>観察</u> 、 <u>ワークシート</u> ・学び合い班での聴き合う学習が効果的に行われているか確認する。(聴く、つなぐ、もどす) 【主体的に学習に取り組む態度】 <u>観察</u> 、 <u>評価シート</u> ・主体的に、仲間の言葉に耳を傾けている。

8 本時の学習指導(3／3時)

(1) 目標

○作品と対話し、言葉や表現に込められた作者の思いを読み味わうことができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ

○言葉の価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の伝統文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 評価規準

○「読むこと」において、詩の構成や展開、表現の仕方について考えている。 【思考・判断・表現】

○ 作品・作者・仲間の言葉に耳を傾け、意欲的に語感を磨こうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 作者の気持ちになって音読する。	○2分間音読	○2～3回音読できるよう、早すぎず遅すぎず、また棒読みではなく、テンポと間に気を付けて読むよう指導する。	3分
【共有の課題】 連と連との間の時間的な隔たりを補って読み、「われ」(と「君」)の思いに深く触れよう。			12分
2 連と連の間の出来事を想像し、学び合い班でそれぞれが想像したことを聴き合う。	○想像と聴き合い ・各連間の時間の流れの中で醸成されたもの ・「われ」の抱いていた思い ・「われ」と「君」との関係の深まりと進展	○連と連との間にある程度まとまった時間の流れがあり、その「時」がどんなことを育んでいるか気づかせるように支援する。 【思考・判断・表現】ワークシート・観察 ・ここでは、(1)各自が深く想像しているか、(2)互いの考えを聴き合っているかを確認する。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・想像が困難な生徒へは、前時で学習した現代語訳等を振り返るよう支援する。また、班の仲間に対して「わからないから教えて」と、課題解決に向けて主体的にかかわろうとするよう声をかける。	
【ジャンプの課題】 藤村は、「初恋」を発表した約四十年後、「早春」という詩集に、第三連を省略し、第四連の最後を「問ひたまふこ<u>そうれしけれ</u>」と改めて、収載している。どうしてそうしたのだろうか。藤村の思いを汲み取ろう。			25分
3 改作後の「初恋」を音読する。	○改作後の「初恋」の確認	○ゆっくり、気持ちを込めて音読するよう指導する。	
4 課題について、各自の考えを述べ、互いに聴き合う。	○学び合い班での聴き合い ・第三連を省いた理由 ・「恋しけれ」を、「うれしけれ」とした理由	○「書き換えたのには何か理由があるはず。」ということを根気強く探求できるよう助言していく。(聴き、つなぎ、もどす) 【思考・判断・表現②】ワークシート・観察 ・ここでは、(1)各自が自分なりの考えを持っているか、(2)班員が対等な立場で意見交換し、主体的に聴き合おうとしているかを確認する。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・課題解決が困難な生徒へは、「友達の意見によく耳を傾けよう」と助言する。	
5 改作した藤村の思いを班ごとに発表し、クラス全体で共有する。	○成果発表 ・班ごとに代表が発表 ・クラス全体で学び合いの成果の共有	○それぞれの発表をクラス全体で聴き合うことが大切であることを促す。 【主体的に学習に取り組む態度】観察、評価シート ・ここでは、主体的に仲間の言葉に耳を傾けているかを確認する。	

6 本時のまとめをする。	○本時のまとめ ・自己評価カードの記入	○今回の聴き合う活動を通して、得たことを詳しく書くよう促す。	10分
【まとめ】 ・連と連との間の時間的な隔たりを補って読むことで、詩をより深く理解することができる。 ・詩の構成や表現にこだわって読み、意図的に「作者の思いに近づこう」とすることで、詩を読むことや考えることを楽しむことができる。			
7 学習の振り返りをする。	○学習の振り返り	○自身の変容を自覚できるように促す。	
【振り返り】 ・具体的な言葉で書かれていない部分(時間の流れやその間の出来事)を考えることが楽しかった。 ・最初は文語表現がよくわからなかったが、繰り返し読んだり、グループで考えたりするうちに、今の私たちと同じような「青春」が、藤村の時代にもあったことに興味が湧き、詩の魅力が理解できた。			

(4) 板書計画

振り返り まとめ	☆改作された「初恋」を 揭示する。	初恋 島崎藤村 今日の学習 《共有の課題》 連と連との間を…… ・一連と二連の間 ・二連と三連の間 ・三連と四連の間 《ジャンプの課題》 藤村は、「初恋」を…… ・三連を省いたのはなぜか。 ・恋ひしけれを「うれしけれ」 に換えたのはなぜか。

9 備考 在籍生徒数:○人